

# 類例は中世の仏堂建築

箱崎和久氏

例として、法隆寺の食堂・細殿や東大寺の法華堂を  
B01(南側の建物跡)と 見ておきたい。  
SB02(北側の建物跡)は 法隆寺の食堂は、背後  
どんな建物だったか。類例に大きな建物(奈良時代)



原添下区域南東部の隣接した2棟の建物について、類例を示しながら解説した箱崎和久氏

があって、正面に小さな建物(細殿、鎌倉時代)がある。軒先は近接するが離れており、その隙間から雨水が落ちるように

東大寺法華堂は、現在は屋根が一体的にかかっているが、かつては別棟だったことが図面を見る

東大寺法華堂の正堂と礼堂の間の空間(相の間)には、一定の大きさがあるが、鳥海柵の遺構は非常に狭い。日本にはこのよ

うな狭い実例はないが、ベトナム・フエの皇帝廟(トゥドック帝廟)にある建物は、大きな建物の正面に小さな建物が建

日本でも古くは同様の建物があっただろうが、現存するものはない。鎌倉時代以降の中世の仏堂には、内陣・外陣と呼ぶ空間を備えたものがある。これは正堂や礼堂を接し

金刀崎の国指定史跡 鳥海柵跡

10

## 考察 全盛期の中心的建物

2017年度シンポジウムより

### パネル討論要旨 II

#### 登壇者

- 千田嘉博氏 (奈良大学教授)
- 本堂寿一氏 (国史跡鳥海柵跡整備委員会委員長)
- 大平 聡氏 (宮城学院女子大学教授)
- 相原康二氏 (えさし郷土文化館長)
- 高橋 学氏 (秋田県埋蔵文化財センター副所長)
- 箱崎和久氏 (奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長)

コーディネーター  
佐川正敏氏  
パネリスト

(東北学院大学教授)

(奈良大学教授)

(国史跡鳥海柵跡整備委員会委員長)

(宮城学院女子大学教授)

(えさし郷土文化館長)

(秋田県埋蔵文化財センター副所長)

(奈良文化財研究所都城発掘調査部遺構研究室長)

現在は屋根を一体的にかけるため必要はないが、別棟だった際の名残なのである。

が、ベトナム・ティエンザン省ホアカイン村で私たちが調査した集会所の建物は、正堂と礼堂が接しており、建物内部に屋根の谷ができていて、雨が降ると水が谷に落ちてくるので、ブリキの樋で雨水を受けている。本来は柱が立つべきところに梁を入れて柱を省略しており、正堂と礼堂の間にはわずかなスペースしかない。

て建て、それらに一体の屋根をかけるように発展したと考えられている。例えは滋賀県にある長寿寺本堂は、平面を見ると、内陣の両脇には脇陣が、背後には後陣が、それらの正面には外陣がある。形式的には、内陣すなわち身舎の両側面と背面に廂が巡り、正面側にも本来、廂があるはずだが、省略されて外陣となり内陣の正面に接している。

断面図を見ると、内陣は身舎と廂が一体的に造られているのが分かる。また、正面側の廂が省略されて外陣が接し、一体的に屋根をかけていることも分かる。日本の仏堂は、古代から中世にかけて、このように発展していく。こういった中世の仏堂の形式は、日本独特のもので、特にこういった屋根のかけかたは、中国や韓国でも見られない構造である。鳥海柵の建物もそういった建築の発展の流れの中に位置づけることができると思われる。